

生命科学概論

Life Science (review)

単位数：1 単位

○ (未定) 教授：代謝生化学

桑子賢一郎 准教授：神経・筋肉生理学

1. 科目の教育方針

医科学の基礎をなす生命科学の成り立ち、方法論、今後の展開の可能性などについて概説する。また、研究の方法、発表・論文作成における戦略についても教授する。

2. 教育目標

一般目標(general instructional objectives)

1) 生命科学の歴史を知って、研究の遂行と科学論文の作成を概説できる。

行動目標(specific behavioral objectives)

1) 生命科学の歴史を概説する。

2) 生命科学研究に必要な方法を複数あげて説明する。

3) 論文の構成とその内容を説明する。

3. 教育の方法、進め方

講義、演習、セミナーへの出席によって行う。

講義は主として面接授業で行うが、新型コロナウイルス感染拡大状況を鑑みて、オンライン授業に変更する場合もある。オンライン授業の場合は、Teams等によるライブ配信を中心にオンデマンドを併用する。講義方法に変更がある場合には都度、連絡を行う。

4. 成績評価の方法

すべての講義および演習が終わった後、規定の出席率(2/3以上)を満たした学生に対し、課題を呈示し、レポートの提出等を指示する。そのレポート等を行動目標の達成度を主眼に評価する。

5. 使用テキスト・参考文献

教科書は用いない。適宜参考文献を紹介する。

6. 教育内容

1) 生命科学の基礎となる分子生物学の揺籃期から現在に至るまでの歴史を、その背後に存在したそれぞれの時代の生命科学への要請に対する努力の結果として捉えつつ概説し、現在の到達点を示すとともに、技術革新による今後の生命科学の展開の可能性について述べる。

- 2) 科学論文の構成と論文作成の戦略について述べる。
- 3) 科学論文読解を体験させる。

回	授業内容	担 当
1	生命科学の歴史と解析法の発展	未定
2	科学論文の構成と作成法	未定
3	生命科学の解析法	未定
4	生命科学の発生概論 1	桑子賢一郎
5	生命科学の発生概論 2	桑子賢一郎
6	生命機能システム 1	桑子賢一郎
7	生命機能システム 2	桑子賢一郎